

カーボンフットプリント検討会

(サプライチェーン全体でのカーボンニュートラルに向けたカーボンフットプリントの算定・検証等に関する検討会)

CN実現のためのサプライチェーン全体での排出削減に向けて、グリーン製品が選択されるような市場を創出し、我が国の成長に繋げていくため、

① 国内外のCFP を巡る状況を整理するとともに、我が国企業のサプライチェーン全体での排出削減と製品・産業の競争力強化の観点から、参照すべきルールを考察し、CFP に関連する政策対応の方向性を明示するレポート「CFP レポート」

② CFP の算定及び検証について、上記の観点から具体的に必要と考えられる事項・枠組について整理し、それを満たすことで一定の確からしさを担保することができるガイドライン「CFP ガイドライン」

上記について議論する検討会を開催。

<委員>

座 長 稲葉 敦	一般社団法人 日本LCA推進機構 理事長
委 員 伊坪 徳宏	東京都市大学環境学部 教授
伊藤 祐樹	三井物産株式会社
河村 渉	一般社団法人 CDP Worldwide-Japan シニアマネージャー
田原 聖隆	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 IDEAラボ ラボ長
渡慶次 道隆	株式会社ゼロボード 代表取締役
野村 祐吾	ソコテック・サーティファイケーション・ジャパン株式会社 環境対策部 審査グループマネージャー
長谷川 晃一	ボストン コンサルティング グループ合同会社 マネージングディレクター & パートナー
深津 学治	グリーン購入ネットワーク 事務局長

オブザーバー 環境省、経団連、日商、全銀協、Green × Digitalコンソーシアム、G-CPS協議会

<開催実績>

2022年9月22日 第一回検討会

テーマ： 「論点と検討の方向性」の提示
「CFPLレポート」「CFPガイドライン」のイメージの提示

2022年10月27日 第二回検討会

テーマ： 目的に応じたCFPの算定・検証等における論点①
「レポート骨子案」「ガイドライン骨子案」について

2022年12月7日 第三回検討会

テーマ： 目的に応じたCFPの算定・検証等における論点②
「レポート骨子案」「ガイドライン骨子案」について

2023年1月31日 第四回検討会

テーマ： 「レポート案」及び「ガイドライン案」の内容の検討

レポート案及びガイドライン案についての意見募集

書面審議

2023年3月31日 CFPLレポート、CFPガイドラインの公表

カーボンフットプリントレポート(CFPLレポート)の概要

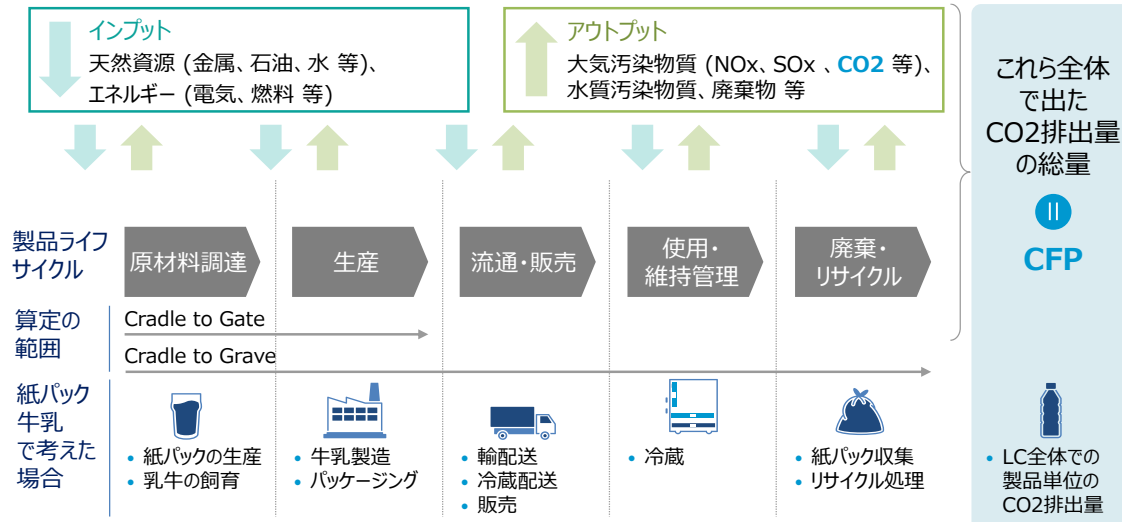
1. 背景・位置づけ

- カーボンニュートラルを実現するため、脱炭素・低炭素製品(グリーン製品)が選択されるような市場を創り出していく必要があり、その基盤としてCFPによる排出量見える化の仕組みが不可欠
- 企業においても、Scope3を含めたサプライチェーン全体での排出量を開示する要請から、サプライチェーン上でCFPを求める動きが広がりつつある。また、国際的には、グローバル企業によるグリーン製品の調達行動等が加速している。
- 上記の背景を踏まえ、本レポートでは(1)CFPとは何か、(2)CFPの取組の現状と課題、今後の方向性、(3)今後に向けた政策の論点、について整理する。

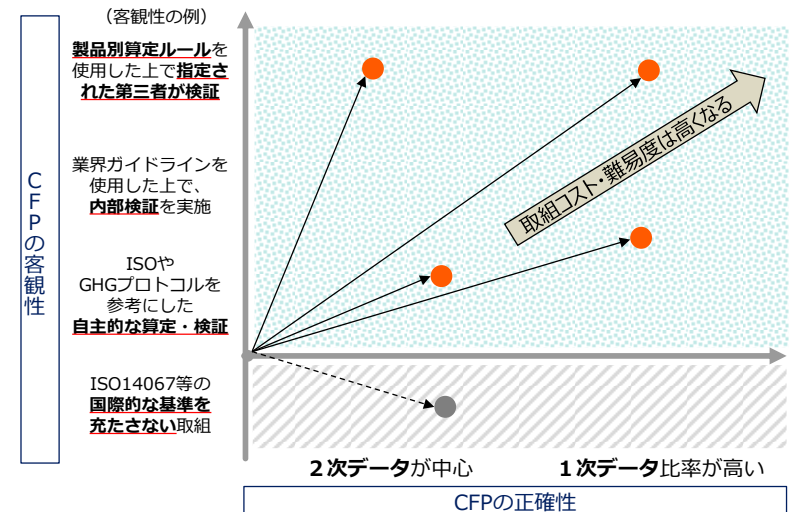
2. CFPの定義・現状

- CFPは、自社の製品のサプライチェーン上におけるCO2排出量を、ライフサイクルアセスメント(LCA)の観点から算定したもの
- 直接測定した実測値(1次データ)を用いることでより正確な算定が可能となるが、実務上、データベースの値(2次データ)を用いた算定が主流で、サプライチェーン上流側の排出削減努力は必ずしもCFPに反映されていない。
- CFP算定には、ISOやGHGプロトコルといった国際的な基準が存在するが、これらは解釈の余地がある等の課題が存在する。
- また、CFPの確からしさには、正確性と客観性の観点が存在し、利活用シーン等に応じて、求められる確からしさは異なる。どの程度の確からしさが求められるかを念頭に置いて取り組むことが、費用対効果の観点から重要。

カーボンフットプリント(CFP)とは製品ライフサイクル全体での排出量の総量



CFPの確からしさを向上させるためには取組コスト・難易度が高くなる

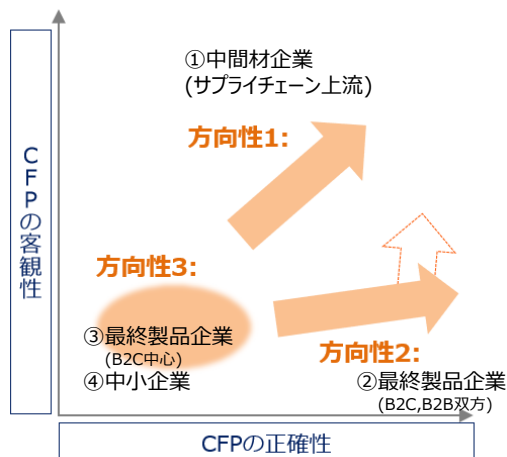


カーボンフットプリントレポート(CFPLレポート)の概要

3. 産業別の課題・今後の方向性

- ① サプライチェーン上流の企業（鉄鋼、化学等）
 - 多排出産業であることが多く、**排出量可視化や削減の要請**が高まっている。また、顧客企業において**CFPの製品間比較**がされる蓋然性が高い
 - 業界での**製品別算定ルール**の確立による**公正な比較**や、削減努力が反映されるための**1次データ算定、サプライチェーンデータ連携**が重要
- ② B2B,B2C双方のビジネスがある最終製品企業（自動車、電機電子等）
 - 上流に加え、使用段階の排出量も含めた**サプライチェーン全体のCFP算定**が求められている。また、**公共調達等でのCFPの活用**が始まっている
 - CFPの取組は一部グローバル企業で進み、日本も取組をリードすることに期待。**裾野の広いサプライチェーン全体の効率的データ共有**が鍵
- ③ B2Cが中心の最終製品企業（衣料品、食品等）
 - 欧米を中心にサステナブル重視の消費が進展し、**CFPの開示によるブランディング**の動きが拡大。海外では**表示の義務化**の検討が始まっている
 - 商品点数が多く製品開発サイクルが短いため、**簡易にCFP算定を行うニーズ**が増大。これまで**CFPに取り組んでいないサプライヤの巻き込み**が必要
- ④ **中小企業**
 - 日本全体の排出量の1～2割弱を占めるが、取組は限定的。他方、**サプライチェーン全体の中でCFPの算定・開示を求められる動き**は拡大
 - 個別企業では対応が難しく、**業界団体やサプライチェーン企業で連携した取組の後押し**が効果的。**削減努力が反映される市場創出**が重要

産業セグメント別の取組の方向性



方向性1: 客観性・正確性双方を重視

方向性2: 正確性を高めることを重視
(一部製品は客観性も高める必要)

方向性3: 比較的易しい方法で算定する
製品数を増やす

4. 今後に向けた政策の論点

- ◆ CFPの取組指針(**CFPガイドライン**)の策定、**1次データ活用の促進**
 - 事業者が参照することで、国際基準に整合したCFPの算定等を行うことのできる取組指針(**CFPガイドライン**)を策定。**優先的に1次データを用いるべき場合を明示**することで、1次データの活用、サプライチェーン全体での排出削減を促進。
- ◆ **政府調達や民間調達**におけるCFPの活用推進
 - 国や地方自治体による公共調達をモデルケースとし、民間企業の調達行動への波及を進める
- ◆ 広く利活用可能な**排出係数の整備**
 - 需要家が**エネルギー(電力・熱等)由来の排出を算定するための排出係数**の整備
 - 輸入原材料や海外サプライヤ**も含む、サプライチェーン上流由来の排出係数の提供支援
- ◆ **製品別算定ルールの策定推進**
 - 例えば公共調達等も念頭とした、公平な算定・比較に必要な製品別算定ルールの策定支援
- ◆ CFPに関する知見を持った**人材の育成**
 - 算定や内部検証を行うCFPに知見を持った社内人材の育成
- ◆ **中小企業の支援**
 - 1次データを用いた算定には中小サプライヤの巻き込みが必要。インセンティブ設計も含めた支援を検討
- ◆ **第三者検証に関する需要拡大**への対応
 - CFPの取組拡大に対応できる第三者検証の供給拡大への検討

カーボンフットプリントガイドライン(CFPガイドライン)について

- 本ガイドラインは、全ての算定者に求められる「**基礎要件**」と、「**比較されることが想定される場合**」(公共調達など、CFPを基にした他社製品との比較が想定される場合)の**追加的要件**を整理。
- 「**基礎要件**」については、他社製品との比較を前提としない場合には、**これに則ればISO等の国際基準に整合した算定等が行える**よう、国際基準の解釈を示すとともに、国際基準では明記されていない部分についての取組方針を示す。
- 「**比較されることが想定される場合**」については、**基礎要件に追加して満たすべき要件**を示すとともに、この場合に必要となる「**製品別算定ルール**」に盛り込むべき事項を明示する。

CFP算定で満たすべき要件と、想定されるシーンの関係の例

満たすべき要件

基礎要件

- 自社製品のCFPを算定することで、サプライチェーンの中で排出量の多いプロセスを特定し、削減計画を検討する。
- 取引先から、他社製品と比較しない前提でCFPを求められるのに対応して、CFPを算定する。
- 他社製品とは比較できないという前提で自社製品のCFPを算定して表示する。

+

比較されることが 想定される場合

- CFPを活用した公共調達
- CFPを活用した民間の調達

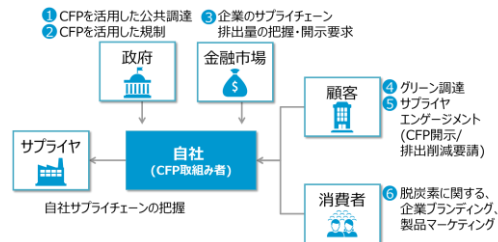
CFPガイドラインの意義

- 他社製品との比較を前提としない場合、**本ガイドラインの「基礎要件」に則れば、国際基準に整合した算定等が可能**となる。また、本ガイドラインが標準となることで、**異なる取引先から異なる方法に基づく算定を求められるといった問題が一定程度解消**されることが期待される。
- 公共調達等において、CFPを活用して**異なる企業の製品比較を行う際に必要となる「製品別算定ルール」に盛り込むべき事項を本ガイドラインに明記**することで、**業界団体等における「製品別算定ルール」の策定が促進**され、**公共調達等にも活用**されることが期待される。
- **優先的に1次データを用いるべき場合を本ガイドラインに明示**することで、**1次データの活用促進**、ひいては**サプライチェーン全体での排出削減が促進**されることが期待される。

(参考) CFP算定の取組の流れ

Step1 算定方針 の検討

CFPの取組の目的や用途を明確にする



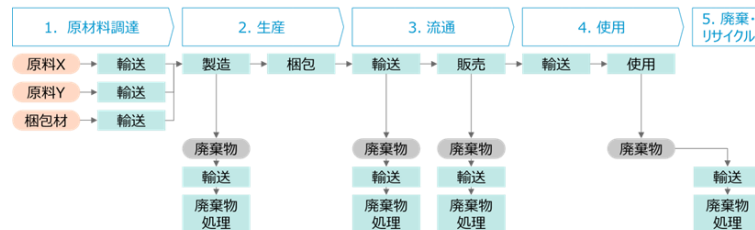
参照するルールを定める

- ISO等の国際的な基準
- 本指針
- 製品別算定ルール/自社ルール

※複数のルールを参照することも可能

Step2 算定範囲 の設定

算定対象製品のライフサイクルを構成するプロセスを明確にする



Step3 CFPの 算定

各プロセスのGHG排出量 (及び除去・吸収量) を計算し、合算する

当該プロセスの
GHG排出量

=

活動量

原材料の使用量、製造における電力消費量等

×

排出係数

活動量の単位あたりGHG排出量

原料調達
における例



製品 1 つあたりの
素材Aの調達量
2.5kg



素材Aの
排出係数
12 kgCO₂e/kg

Step4 検証・ 報告

CFPが適切に算定されているかを確認

算定のロジック



データ
収集方法



CFPの算定結果をとりまとめる

算定報告書



カーボンフットプリントガイドライン(CFPガイドライン)の構成

第1部 本ガイドラインに関する基本的考え方、CFPの意義・目的

- (1) 本ガイドラインの位置づけ
- (2) 想定する読み手
- (3) 用語集
- (4) CFPに取り組む意義・目的
- (5) CFPの提供を受けて利活用する者が注意しなければならないこと

第2部 CFPに関する取組指針

- Step0 CFP算定の原則
- Step1 算定方針の検討
- Step2 算定範囲の設定
- Step3 CFPの算定
- Step4 検証・報告

(別冊) CFP実践ガイド (後日公開)

- 第1章 CFP実践ガイドの目的と位置づけ
- 第2章 CFP実践ガイド
 - 第1節 算定
 - 第2節 表示・開示
 - 第3節 削減
- 第3章 おわりに